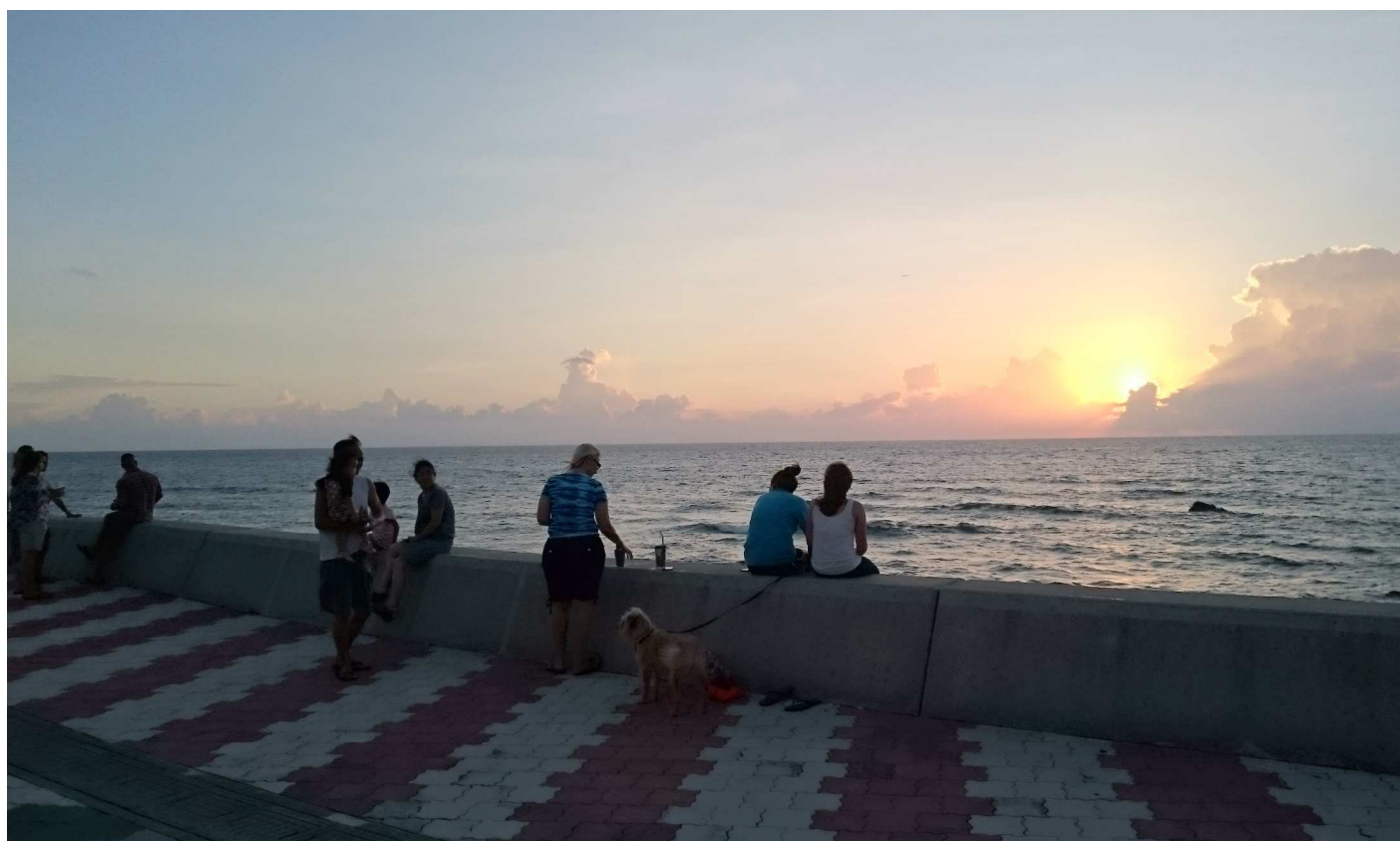


Liscicul Network News Letter

No.3 (2017.4)



Contents

○理事長ご挨拶	・ ・ ・ ・ ・ 早川あけみ先生	2
○第4回健康文化フォーラム・第2回ライサアカデミア講座を終えて	・ ・ ・ ・	2-3
○特別寄稿	・ ・ ・ ・ ・ 足立壮一先生、今井健一先生	3-5
○ライサメッセージ	・ ・ ・ ・ ・ 須崎弘子先生、川本善之先生	5-7
○ライサコラム・第3回	・ ・ ・ ・ ・ 北村友祐さん、大和永佳さん	7-8
○編集後記	・ ・ ・ ・ ・ 鈴木治彦先生	8

理事長ご挨拶

一般社団法人

生命科学文化推進機構

理事長 早川あけみ



新年度にあたり法人代表としてご挨拶させていただきます。

生命科学文化推進機構（ライサ）は山口東京理科大学在職中に有志の皆様のお力添えで法人設立が叶い、幸いにして5年目を迎える事が出来ました。この紙面をお借りし、ひとえにライサ会員の皆様のご理解とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

ライサは設立当時から一貫して社会に対し大学の枠を越えた、アカデミックな研究成果と歴史上に人が価値ある創造物を成し得た多様な文化との融合による成果を情報提供する事を理念としています。ライサは健康志向の高まる今日において、健康文化フォーラムやアカデミア講座および医療健康相談などの社会活動を実施しています。

さて、グローバル化した情報社会は多種の情報量が溢れ、人々はたやすく情報を入手し充足された日常生活を過ごしています。しかし、光と陰の選択を自ら捉え、正しい情報を得る事が重要とも思われます。さらに21世紀は精神社会とも言えるでしょう。心身ともに健全な生活を保持するためにもレジリエンス resilience（精神的回復力）理論を見据え、ストレス社会を生き抜くために肉体と精神両面での健康ファーストを提唱すべきだと思われま。

そして想いは「生きている己を見つめ、生きることを考える己の先には、平な心のオアシスに満たされるであろう」

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月 吉日

第4回健康文化フォーラム・第2回ライサアカデミア講座を終えて

第4回健康文化フォーラムが昨年9月に、第2回ライサアカデミア講座が11月に愛知県名古屋市で開催されました。多くの方にご参加いただき大変盛況なイベントとなりました。

第4回 健康文化フォーラム 2人に1人がガンの時代～確かな情報を専門医が語る～

◆プログラム：

①講演：「夢の万能抗癌剤を目指して」 講師： 足立壮一 先生

②講演：「今後の乳がん検診と治療の方向性について考える」

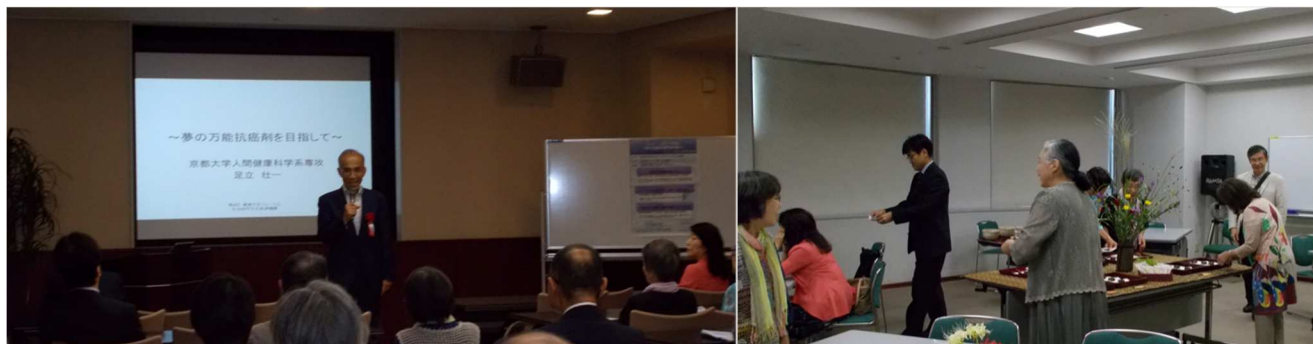
講師： 中嶋啓雄 先生

③文化と科学：「Over The Rainbow 虹のかなたに ～音楽でみんな笑顔で健やかに～」

講師： 須崎弘子 先生

◆開催日：2016年9月25日（日）

- ◆会 場：名古屋都市センター 特別会議室
- ◆主 催：ライサイカルネットワーク
- ◆後 援：愛知県 ◆助成金：大阪コミュニティ財団 木原隆がん基金



第2回 ライサアカデミア講座

◆プログラム：

①講演1：「セラミックスの科学」

講師： 土谷敏雄 先生

②講演2：「お口と全身の健康 ～口腔ケアで健康長寿～」

講師： 今井健一 先生

◆開催日：2016年11月20日（日）

◆会 場：名古屋都市センター 第3会議室

◆主 催：生命科学文化研究会



特別寄稿 I

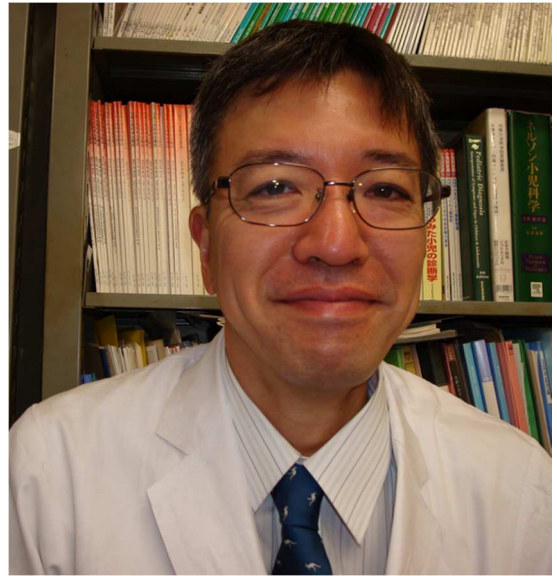
夢の万能抗癌剤を目指して

京都大学医学研究科人間健康科学系専攻
血液・生体防御学研究室 教授 足立壮一 先生

小児白血病に代表される小児がんは 50 年前には不治の病とされていましたが、治療成績の向上により、今では約 80%に長期生存が期待できる病気になりました。一方、長期生存者が増加し、わが国でも数万人以上に達し、成人した小児がん経験者は成人の数百人に一人に及ぶと推計されています。小児がんは、

成人のがんと異なり、治癒する確率が高いですが、一般的に治療は強力であり、化学療法、放射線療法、手術、造血細胞移植等、集学的治療が行われます。また、身体・精神・社会的に成長する途上に発病し、治療を受けるため、治療終了後も、長期にわたって、健康問題をフォローしていく必要があります。2015

年に発足した全国臨床研究組織である、日本小児がん研究グループ（JCCG）では、長期フォローアップ委員会は、晩期合併症の早期発見と治療、教育・就労に関する相談、妊娠・出産に関する相談、心理・社会的なサポート、健康の維持・教育、包括的なヘルスケアができるフォローアップ体制の整備を行います。今後、小児がん患者および保護者は、全国どここの病院に入院しても、しっかりとした中央診断と専門的な治療を受け、長期にわたって、きちんとした長期フォローを受けられる仕組み作りが出来上がりつつあると考えられます。また、京都大学人間健康科学系専攻は、世界トップレベルの先端医療技術の開発やそれを担う人材の育成を行うため、組織改革を行っており、新設する総合医療科学コースでは、医療ビッグデータサイエンティストも養成します。医療ビッグデータサイエンティストは、スーパーコンピューターを用いて、ビッグデータからの医療の高度化を目指す人材です。シミュレーションによる予測医療、データサ



イエンスに基づく先制医療（病気になるリスクの高い人を生活指導等で予防する）、個人の体質に合った安全で最適な医療（薬剤の副作用予測等）、そして難治性小児がん患者にも福音をもたらす、画期的新薬の効率的創製（薬価の安い新薬の開発）が可能となり、現在、我々の研究室では、スーパーコンピューターを用いた新薬開発研究に尽力しています。

特別寄稿 II

わかりやすい研究を目指して

日本大学歯学部細菌学講座 教授 今井健一 先生

平素は早川理事長はじめ、ライサの先生方には大変お世話になっております。昨年の11月、第2回ライサアカデミア講座にて、「お口と全身の健康 ～口腔ケアで健康長寿を～」と題して講演をさせて頂きました。一般の方々に（わかりやすく）話をするというのは、いつもの学会発表と違い、スライドはもちろんのこと、話す内容から考えなくてはならず、学会発表より難易度は高いと思います。一方で、自身のおかれている立場や研究内容などを客観的にみられる

機会となるため、大変貴重な時間であるとも考えております。これは、学生講義に対する考え方にも通ずるところがあるかと思えます。一般の方々はどうなことに興味があるのか、講演中や質問内容から知ることもできます。また、このような機会のたびに、異分野の方々に、少しでも面白いな…、なるほどな…、と思って頂けるような研究、話が出来ることが重要と考えます。良い研究は、その意義・重要性が解りやすく、極端ではありますがノーベル賞級の研究は、

新たな分野を切り拓いた研究であるため、短い説明でもその凄さが解るような気がします。

お話を頂いたように、お口の病気、特に歯周病の予防は、全身の健康維持・増進のために非常に重要であることが解ってきました。また、自身の歯で食事が出来る楽しみは、歳を重ねるごとに実感すると思います。しかし、その時は歯を失った時でもある、という非常に残念な現状があります。これは、口腔ケアの重要性が十分に認知されていないのと、EBM 実践のためのエビデンス不足が大きな要因だと思います。口腔の微生物が原因となる誤嚥性肺炎がどのようなメカニズムで起こるのか、また口腔ケアはなぜ予防に有効なのか？など、基本的なことが未解明のままであることに気が付きました。今後は、遺伝子を切ったり貼ったりと、論文のた



めの研究も時には必要ですが、誤嚥性肺炎予防のための臨床・基礎研究など、人々の健康増進に役立ち、なるべくわかりやすい研究を進めていければと考えております。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

* ** * ** * * 会員の皆様に伝えたい * ** * ** *

ライサメッセージ 1

虹のかなたのどこかいつも聞こえる子守唄

評議員

認定音楽療法士 須崎弘子 先生

会場はトーンチャイムの優しい音色で包まれました。この度は第4回健康文化フォーラムに登場させていただき、大変光栄なことだったと振り返っております。

音楽はいつでもどこでも、誰でも個人でも集団でも関わる事ができます。

音楽療法（音楽を使った生理・心理・社会的活動）は認知機能、ADL（日常生活動作）QOL（生活の質）を改善するべくお手伝いをします。一

方では、多くは集団（広義に）として行事の折々やサークル活動またはレクリエーションとして歌を歌う、楽器を鳴らす、体を動かす、音楽を聴くなど組み合わせで五感を揺さぶり楽しいプログラムを提供します。高齢者の方々には歌って笑って心身の活性化を、成人の方々には気分転換と生活にうるおいを、児童には音や音楽を使い成長の手助けを、など健常者、障害のある方のライフステージすべてに活用されます。

又、他方では、『個人（狭義に）...医療的に様々な疾患、障害に用いられてきたが特に中枢神経に起因する各種病態に対する治療の一つに用いられてきており、音楽の持つ「音」としての聴覚野を刺激する単純物理的事象、「リズム・メロディ・歌詞」による大脳辺縁系を賦活する情動的事象、更には記憶・認知系を刺激し「懐かしさ」につながるアルバム事象がこれらを病態の脳の機能改善また残存する脳の新たな機能開発に何らかの促進を作用している（...部略、第10回日本医療研究会学術大会 2016.11 より）』とあるように心と身体は脳のなにかしらの反応と常に連動しているようです。「ライサ」にて科学す



る多様な学びをさせていただけることに感謝し、会員として音楽療法士として地域社会の健康増進のお役に立てるように日々向上の念を抱いて精進して参ります。

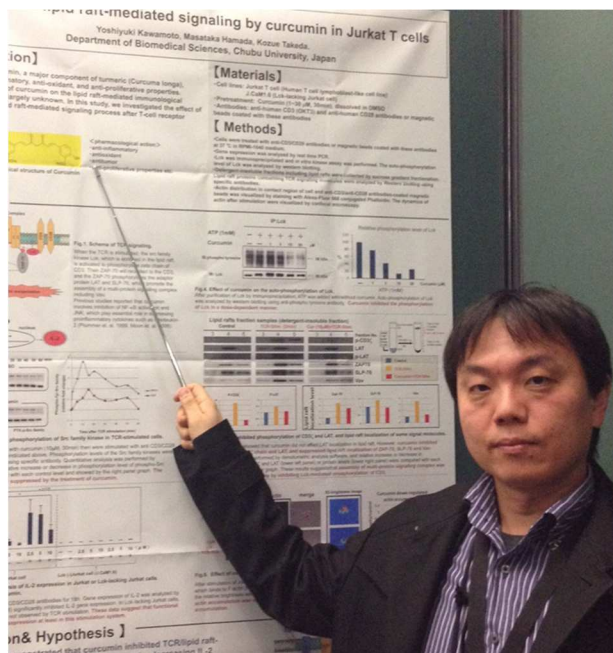
ライサメッセージ2

早川理事長との出会いから

評議員

中部大学生命健康科学部 准教授 川本善之 先生

私は現在、中部大学生命健康科学部にて教育、研究に身を投じています。免疫学、生体防御学が専門で、特に最近アレルギーやがんの予防法について研究を進めています。もともと出身は農学系研究科でしたが、予防医学に興味を持ち、医学系研究科の博士課程へ進学しました。研究室は、後に現職へ導いてくださった中島泉教授（現中部大学常勤理事）の免疫学講座を選び、ここでその後現在までお付き合いさせていただくことになる、本機構評議員の鈴木治彦先生と、理事長、早川あけみ先生と出会いました。進学前後の当時の小生は、若さと経験のなさゆえに考え方の視野が狭く、理想としていた研究者像と現実とのかい離に悩み、サイエンティスト不信に陥りそうな精神状態にあったように思



います。そのようななか、大学の細胞機能解析研究室で早川先生とお会いしました。

初めまして、とお話をするうちに、まるで旧知の間柄ではないかと錯覚するほどにあつという間に打ち解け、初対面にも関わらずその場で共同研究の方針が立ってしまっていて驚いた記憶があります。その後、定期的に早川先生を訪れ、アケミックセミナーと呼んだアカデミックな話し合いや、夜のアケミ会（メインはお酒）といったミーティングに参加させていただくうちに、早川先生の素敵なお人柄を少しずつ知るようになり、また色々な先生方や研究者と知り合うこ

とができ、研究や人生観において、多様な考え方に触れていくことができました。そのうち、科学研究者に対する不信感じみた感情は自然となくなり、知り合えた研究者の協力を得て、幸い学位を取得でき現在に至っています。ライサに各界から素晴らしい人たちが集まられていることは、早川理事長の天性の求心力と行動力の賜物にほかなりません。この集まりの中で「人の多相交流」が進み、ライサが持続的に発展していくことを大変楽しみにしています。

会員で繋ぐ ライサコラム

社会で働くようになってから「日々是勉強」という言葉を毎日実感している北村友佑と申します。そんな私からは何かを学ぶときにとっても為になっている方法をご紹介します。

皆さんは「ファインマン・テクニック」と呼ばれているメソッドをご存知でしょうか？

アメリカの物理学者リチャード・P・ファインマンの唱えた学習方法です。

- ① 子どもでも分かる言葉で書き出す
小学生の子どもに教えるイメージでやります。専門用語を使うと自分が本当に理解できているか気付けないそうです。
- ② 自分の言葉で説明できるまで復習
①で上手く説明できないポイントを復習します。この段階で自分の知識の限界を特定できた状態なのです。
- ③ シンプルに編成しなおす
①と②を繰り返したメモを見返し専門用語を使っていないか確認します。説明が難いと感じたらまだ理解が足りていないサイン。

ライサ会員 北村友佑さん



- ④ 他人と共有してみる
まとめた内容を誰かに読み聞かせてみましょう。そのテーマに疎い人が理想的でこのステップが最終テストです。仕事でのプレゼンや自分の趣味を友達に語る時など、この方法で一度、整理しておくときっと役に立つと思います。

はじめまして、大和 永佳と申します。

さて、AI（人工知能）という言葉をよく耳にしますが、ご存知ない方もまだ多いのではないのでしょうか？

私が AI と出会ったのはスティーブン・スピルバーグ監督の SF 映画『A.I.』でした。2001年の公開当初すごく話題で、観た時には私の生きている間にこんな時代が来るのだろうかと思いました。

AI とは人間の知能を機械化する技術のことですが、1950年代から研究され、それが今、多岐分野で応用され更に躍進を遂げています。特に医療や車などの分野で活用が目立ちますが、昨年、囲碁で AI が世界一のプロ棋士に勝ったのは驚きでした。私が勤める人材サービス会社でも IT 会社と共に、人と企業を繋ぐツールとして開発を進め、昨年から実用化され人と企業の高より高い整合性を図っています。



ライサは、科学や文化など専門性の高い特定分野と人を繋ぐ場だと感じますが、今後大きな成果と恩恵に期待が寄せられる AI により、更なる飛躍と広がりのあるものとなればと願います。

編集後記

ライサも既に発足から5周年を迎えようとしており、Newsletter も第3号の発刊となりました。Newsletter の編集は内容の構想に始まり寄稿者への執筆依頼、執筆者から送られてきた文書や写真の加工、冊子への配置、製本の発注、読者への発送という流れになりますが、なかなか手間のかかる、神経を使う仕事であります。それと誠に厳しい予算の中で Newsletter を(というよりはライサそのものをとって)もいいかもしれません)存続させているのは、ひとえに早川理事長の人徳のなせる技なのでしょう。今後もライサ Newsletter が続けられることを祈ります。(表紙の写真は神田先生より提供いただきました)

鈴木治彦

H29年の予定

- 総会・役員会：6月11日(日)
- 5周年設立記念講演会：9月3日(日)
- 第3回アカデミア講座：11月26日(日)

ライサの Twitter アカウントを取得しました。『@liscicul』で検索してフォローしてください♡

ライサでは協賛企業を募集しています。詳細は事務局までお問い合わせください。



一般社団法人 生命科学文化推進機構 事務局
〒460-0024
名古屋市中区正木 4-11-8 レインボー第3金山 202号
TEL 052-253-9111 FAX 052-253-9139
E-Mail office@liscicul.or.jp

News Letter 編集委員会
編集委員 松本 義也
中嶋 啓雄
鈴木 治彦
神田 秀喜